

# 「ウトガラ」のマスク 地元愛も身につけて

## 宇土市で手作り ワークショップ

宇土にちなんだ絵柄「ウトガラ」の手拭いを使ったマスク作りのワークショップが29日、宇土市三拾町のカインズ熊本宇土店であった。

同市とまちづくりで連携する崇城大工学部(熊本市西区)の内丸恵一研究室の学生が、子どもたちを楽しみながら宇土を知ってもらおうと企画。ウトガラは、うと地蔵祭りや御興来海岸など地域の柄が18種あり、創作・活用に取り組む市民グループが制作する。

この日、市のPRキャラクター「うとん行長ちゃん」も駆け付け、宇土市内外から10人ほどが参加。手拭いにアイロンで折り目をつけ、布用の両面テープで固定。ひもを通すと10分ほどで特製マスクが完成した。

同市街地を通る上水道の轟(とどろ)き水道の柄で作った永井琴子ちゃん(6)＝熊本市西区＝は「うまくいかなかったところ

「ウトガラ」の手拭いでマスクを作った参加者と崇城大院生ら。左はうとん行長ちゃん＝宇土市



もあるけど楽しかった」と早速、口を覆っていた。

マスク作りは31日以降も3回、同店で開催を予定しているため中止した。(西國祥太)